

いもこじ

第58号

【年3回発行】

〈事務局・編集〉
鹿児島教育事務所

第36回日置地区ふるさとを興す保健・福祉学習大会 第38回日置地区ふるさとを興す組織・教育・食料・環境学習大会 強い絆づくりを 日置地区地域女性団体連絡協議会 学習テーマ

★「健康かこしま21」の実践を目指して
★共生・協働で地域の絆をつくらう

令和6年8月27日(火)、いちき串木野市いちきアクトホールにて、約90人の参加を得て、盛大に開催されました。



学習大会の様子

開会行事

いちき串木野市
中屋謙治市長日置地区地域女性団体連絡協議会
塩屋かよ子会長鹿児島地域振興局保健
福祉環境部 竹井浩子部長県地域女性団体連絡協議会
大迫茂子会長

保健・福祉学習大会

地域活動支援センタークリンカハウスの児島淳子施設長の講演がありました。「加齢から華齢へ」という演題で健康寿命を延ばす秘訣や日常の過ごし方について教えていただきました。「華齢」の人は、例えば、料理や野菜作り、短歌など得意分野がある、家族や仲間との交流を楽しめる、脳活性化(歩く、読む、笑う)等を実践していると話されました。日頃から、よく動く、よく食べる、よく寝るなどの自己努力が必要で、日々、幸せを感じることが健康寿命を延ばす秘訣だそうです。児島氏の鹿児島弁を交えたユーモア溢れるトークに参加者は最後まで引き込まれ、あっといふ間の一時間でした。学びの多い講演でした。



講師の児島淳子氏

華齢

その人なりにすぐれていて、はなやかな生き様であること

組織・教育・食料・環境学習大会

◆いちき串木野市地域女性団体連絡協議会
上名地区代表 宮内一子さん

困りごと支援隊「よかど袴田(はかまだ)」を立ち上げ、地域と共に寄り添ったボランティア活動を展開しているという発表でした。袴田地区はボランティア精神が高く、「ともしびグループ活動」が支えになり、社会福祉協議会等の協力もあって活動ができたことなどを語られました。他の地域にはあまりない取組で、参加者は具体的な支援活動を熱心に聞いていました。

◆日置市東市来地域女性連絡協議会

副会長 金井トキ子さん

「母親たちの強い思い」から始まった交通安全運動の歴史を紹介されました。交通安全母の会の組織として、県内の先駆けであったこと、そして、活動の成果が認められ、全国レベルで表彰された実績を語られました。早朝広報活動、立哨指導など交通事故防止運動の多くの活動が今なお、地域全体で大事に引き継がれていることに参加者は頷いていました。

参加者から「協力的で組織がしっかりしている、自分の地域でも参考にしたい」等の感想がありました。「誰もが幸せに生きられる地域社会」という原点を大切に、いつまでも元氣な地域女性連であってほしいと願っています。



発表する宮内さん(右)、金井さん

日和下駄

学んで良かった

日置市中央公民館
館長 須田木 優二



当館は一般教養講座として「いすの木学級」を開設している。各分野の専門家に講師をお願いし、成人、高齢者の方々が学びを深めている。

1回目の講座が終わったとき、女性の受講者に声をかけられた。数年前、御主人を病気で亡くされ、昨年からは加齢が加わっていた。「主人を亡くしてから、何をしても元気が湧かず、人に会うのも避けていました。外に出るのもおっくうで…。でも、これではいけない」と思い、この講座を受けました。館長、思い切った受講して本当に良かった」と涙ながらに笑顔で話された。女性は、残りの人生をどう生きるかを考えた上で、受講を決断されたのだろう。

一年間の学びの中で、仲間と共に学ぶ喜びと新たな絆に生きる喜びを取り戻したこの女性の学び。講座での学びが、新たな生きる力となった。

変化する社会の中で、新たな役割が公民館に求められている。しかし、「学びの拠点」としての公民館の役割を忘れてはならない。人の生き方を左右する公民館での学び。受講者の「学んで良かった」という思いを大切に、今後も公民館が自分らしく学ぶことができる生涯学習の場となるよう力を尽くしていきたい。





地域の文化財の保護と活用 ～課題は高齢化、担い手不足

鹿児島地域文化財保護審議会委員及び文化財行政担当者等研修会

7月16日(火)、いちき串木野市いちきアクアホールにおいて、鹿児島市、日置市、いちき串木野市、十島村の文化財関係者32名の参加を得て、開催されました。

開会の挨拶では、いちき串木野市長(写真)が、市内に残る貴重な史料等を収集し、後世に残すため作成された5冊の「郷土資料集」を紹介されました。

事例発表では、いちき串木野市社会教育課主幹兼文化振興係長新町正氏が「市来の七夕踊り」民俗文化財調査事業をとおして」と題して発表されました。約400年の歴史がある国指定重要無形民俗文化財「市来の七夕踊り」は、大里地区の少子高齢化が進み、後継者不足で継続が困難となり、同規模での開催は令和4年度が最後となりました。後世に伝えていくために、七夕踊の詳細を記録保存しているこ



▲七夕踊伝承会



▲発表する新町氏



「串木野麓」を歩く



と、そして、新たに「七夕踊伝承会」が設立され、活動していることなどが紹介されました。

各市村の取組等発表では、後継者不足、担い手不足などの課題が多く挙げられました。また、県教育庁文化財課文化財主事の森幸一郎氏からは本県の文化財保護行政の取組について指導をいただきました。

研修視察「日本遺産「串木野麓」」

厳しい暑さの中、新町正氏、所崎平氏(市文化財保護審議会会長)らの案内で、旧入来邸武家屋敷など串木野麓周辺を詳しく説明していただきました。地区の歴史を知る有意義な研修となりました。

持続可能な地域づくりとは 日置地区公民館経営研究会

10月22日(火)、日置市中央公民館において、公民館・行政関係者47名が参加し、事例発表・講演を通して研修を深めました。



▲研究会の様子

事例発表 小規模地区公民館の人材が生きる地域力

坊野地区公民館長 本良久氏

「めざそう、長寿の郷、日本一」を掲げる人口89人(令和6年3月現在の)日置市坊野地区公民館が、限界集落と言われない地域づくりの取組を発表されました。



▲発表する本氏

小規模、高齢化の実情を踏まえた健康づくり事業、都市農村・地区世代間交流、地域見守り活動、地域防災活動など、戦略的な取組が行われていました。

また、きれいな地域づくり事業では坊野の誇りである県指定文化財「黒川洞穴」に、地域力を発揮した保存活動がなされていました。参加者からは、「課題山積の中で、前向きに工夫しながら取り組んでいる姿がすばらしい」等の感想が寄せられました。

本良久館長より

年齢を問わず、地域人材を生かす、一人一人が地域の実情を理解することが大切。何もせず、良い話が転がってきた試しがない。取り組むことで、良さも課題も必ず生まれる。

講演

志あふれる地域づくり

志布志市コミュニティ推進課地域コミュニティ係 地域支援員 川崎桃子氏

志布志市で地域・子育て支援やコミュニティ協議会の活性化を支援している川崎桃子氏に講演をお願いしました。



▲講師の川崎氏

川崎氏は志布志市に初の地域コミュニティ協議会として「潤ヶ野校区コミュニティ協議会」を設立し、地域主体による「うるがのフレンドパーク」公園やキャンプ場整備など、地域の魅力向上や交流人口の促進に取り組んできたことを話されました。

また、郷土教育や地域おこしのため、川崎氏が中心になって企画し、かるたの「絵」「句」を募集して作成した「志布志市郷土かるた」も紹介されました。



▲参加者によるかるた大会

「地域存続のため、大切なのはつながりづくり、人づくり」、「新たな発想、視点での地域づくりは勉強になった」との感想がありました。本研究会で学んだことを自分の市や公民館の実態に合わせながら公民館経営等に生かして欲しいと思います。

わが町から〜日置市教育委員会

関ヶ原町・日置市スポーツ少年団親善交流事業

日置市の友好都市である関ヶ原町は、400年の時を超えてなお語り継がれる「関ヶ原合戦」の舞台となった地です。のどかな田園風景の中に、合戦ゆかりの史跡が数多く残り、日置市に縁ある島津義弘公陣地跡などの石碑も立っています。

現在、日置市と関ヶ原町はスポーツ少年団の交流が盛んで、毎年行き来しながら子供たちが交流を深めています。また、関ヶ原合戦祭りには、日置市も招待していただき、参加しています。

コロナ禍のため中止となっていた事業でしたが、令和5年度は、伊集院バドミントンスポーツ少年団・日吉剣道スポーツ少年団。児童12名・保護者9名が、関ヶ原町にて、グラウンドゴルフ交流大会や、史跡等見学を行いました。

令和6年度は、7月26日(金)〜28日(日)の2泊3日の行程にて受入研修を行いました。歓迎式では、



木書体験(派遣研修)

知覧特攻平和会館(受入研修)

わが町から〜日置市教育委員会

関ヶ原町から、児童10名・保護者6名、日置市からは、9つのスポーツ少年団の団員97名、保護者46名、合計143名が参加し、関ヶ原町使節団と共に、日置市にて盛大に交流を深めました。

また、次年度、派遣研修として関ヶ原町を訪ねる伊集院Jr.ソフトテニススポーツ少年団員と保護者は、関ヶ原使節団員と共に、かき氷で有名な「しろくま」など、鹿児島の食を楽しむながら、知覧特攻平和会館を訪れるなどして、鹿児島の史跡や歴史を学びました。

参加した児童の中には、「この研修で、鹿児島の事を知ったり、関ヶ原町の方々と仲が深まったりして良かったな」と思いました。次は、関ヶ原町へ行くので、そのときも、今回のことを忘れずに、もっと多くの知識を増やしていきたいです」と感想を述べていました。

このように関ヶ原町・日置市親善交流事業は、友好都市のお互いの歴史や文化を学びながら、スポーツ少年団員・保護者の交流を深めるとても良い機会となっています。

わが町から〜いちき串木野市教育委員会

「青少年育成の日」活動推進キャラバン

「青少年育成の日」の活動推進の一環として、子ども会活動の活性化と地域で子供を守る環境づくりのためにキャラバン活動を実施しています。

キャラバン隊のメンバーは、市子連運営委員、市青少年育成補導委員、小中学校長、まちづくり協議会長、教育委員会職員等です。今回は4地区の取り組みを紹介します。

「生福地区「一日キャンプ」

7月20日(土)、初めての試みで、午前中に子どもチャレンジ灯籠・水鉄砲づくり、午後からプール開放を実施しました。地域の方から「久しぶりに子供たちの元気な声を聞いた」との感想が寄せられ、子供たちも「来年も開催してほしい」と話すなど充実した一日キャンプになりました。



「照島地区「大灯籠絵描き」

地区の六月灯に向けた大灯籠の絵巻ワークショップを開催。まちづくり協議会に協力をいただき、周囲の方々の情報をもとに、地区役員全員で準備もスムーズにできました。当日は、幻想的な明かりが祭りに花を添え、子供たちも、自分たちが描いた大灯籠を誇らしく眺めています。



わが町から〜いちき串木野市教育委員会

「川北地区「歴史探訪ウォークラリー」

地区内の講師を迎え、地元の知らない歴史に触れられる良い機会になりました。

資料による説明に加えて、実際に学べたことは貴重な経験になりました。子供たちは校長先生や地域の方々とも交流ができました。



「上名地区「田植え」

神村学園専修学校の生徒も参加し、異年齢・異文化交流もできました。また、食育について体験発信する良い機会にもなりました。校区の小・中学校の校長・教頭先生方の激励に、子供たちも嬉しそうでした。参加人数が多かったため、交代での田植えとなりました。



キャラバン隊からは、「地域の方々と一緒に、子供たちが意欲的に活動している姿を見ることができて良かった」という感想がありました。

一方で、「計画段階からもっと市の協力があると助かる。キャラバン隊も参加してもらえると、円滑に進めることができる」といった意見もありました。今後は運営委員会が各地区の情報を把握し、企画の段階から積極的に関わり、子ども会役員の負担を減らす取組が必要だと感じました。

わが町から〜三島村教育委員会

交流学習 in 玉龍

三島村立義務教育学校交流学習

「より多くの様々な人々との交流を通して、子供を大きく成長させたい」これが交流学習の目的です。

今回の交流学習は、島内の後期課程生(中学生)が一堂に会し鹿児島市立玉龍中・高等学校の寮を拠点として、3泊4日で行いました。

初日は、緊張しながらの大人数の玉龍中学生の中での授業、ジャンベ交流を行いました。昼休みは多くの中高生が見つめる中、ジャンベの演奏を披露しました。大きな拍手に包まれての満面の笑みが素敵でした。



翌日は、鹿児島大学です。広い学内を見学し、大学教授による特別講義や大学生との交流をもちました。

毎晩、村内の他の学園の生徒と親交を深めました。遠隔授業で顔は知っていましたが、距離がぐんと縮まり、次の遠隔授業が楽しみでした。

最終日、終わってほしくないとの声が聞こえました。わずかな期間でしたが、一人一人が自分の成長を実感し将来を考える機会となりました。

9年生の春は「島立ち」です。そこに向けて今回の交流学習は、価値ある機会になったと考えます。

「きばれ、三島っ子」

わが町から〜三島村教育委員会

わが町から〜十島村教育委員会

継承される「八月踊り」

諏訪之瀬島

夕暮れ時、リズムカルな太鼓と歌声に合わせ島民が輪になって踊ります。諏訪之瀬島に伝わる「八月踊り」は祭りに欠かせません。

お盆の迎えと送り、五穀豊穡を祈る新節、悪神を払う柴獅子、神役を決める祈願祭など年間8回踊ります。踊りの振り付けやテンポは一見同じですが、全て異なる曲と踊りの組み合わせで、十種類の踊りを習得するのは一筋縄ではいきません。

八月踊りは地域の指導者の協力により、諏訪之瀬島の子供たちに継承されています。子供たちは発祥の由来を学び、練習を繰り返して覚えていきます。八月踊りは奄美大島(旧笠利町)から伝わったとされ、その当時の交流や歴史的背景を知ること興味が一層わきます。子供たちは柔軟な感性で踊りを覚え、楽しんでいます。

踊りは旅行者や初心者にも大いに歓迎され、経験がなくても踊りの輪に入り、見よう見まねで踊りを楽しむことができます。諏訪之瀬島の文化を伝える良い機会です。

これからの八月踊りは島民及び山海留学などで諏訪之瀬島を訪れた人々にも伝えられていくと思います。



わが町から〜十島村教育委員会

北薩に集う!

県子ども会ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会
培う友情 紡ぐ絆 北薩に集いし光 未来へ

7月27日(土)から28日(日)の1泊2日、県内7地区から52人のジュニア・リーダーおよび高校生クラブのメンバーが集まり、薩摩川内市立少年自然の家で交流大会が実施されました。大会では、北薩地区のジュニア・リーダー13人が実行委員として、準備から当日の運営までを担当しました。

開会式の後に、アイスブレイキングが行われ、初めて顔を合わせる中・高校生がグループに分かれて緊張をほぐしながら交流を深めました。各地区の紹介では、短い時間で工夫を凝らした発表を行い、地域の特徴や活動内容を共有しました。

1日目の研修では、「創作活動」や、夕食後に「プラネタリウム」「頭脳ゲーム」「語ろう会」等多彩なプログラムが実施されました。これらの活動とおとして、チーム内での役割分担やコミュニケーションの重要性を再認識し、リーダーシップのスキルを磨くことができました。



▲アイスブレイキングの様子



▲頭脳ゲームの様子

2日目の研修では、「ウォークラリー」が行われました。自然の中に設定されたコースを歩きながら、チェックポイント

この大会を通して、リーダーシップやチームワークの重要性を深く理解し、実践的なスキルを身につけることができました。互いに学び合い、成長する機会を得たことは、今後の地域活動に大いに役立つでしょう。

この北薩地区大会の成功は、関係者全員の協力と参加者たちの積極的な活動によるものでした。令和7年度は大隅地区で開催予定です。



再会を期して!

編集後記

日和下駄に「講座での学びが、新たな生きる力となった」と一人の女性の学びが紹介されている。昔、「学ぶことは生きるということ、学ぶという姿が人間の美しい姿である」と教えてもらったことがある。いつまでも学びを続ける人でありたい。(事務局 田中)